

## お会いできる日を楽しみに

学校長 出野 憲司

「私は典型的なアナログ人間だから」。

こんなことばをしばしば耳にします。「アナログ」の反義語は「デジタル」ということなのでしょうが、あまり「デジタル人間」ということばは聞かない気がします。

すると、「アナログ人間」というのは、現代社会にそぐわない、古いタイプの人間ということになるのでしょうか。そういえば、少し前までは、夢の世界であった「携帯電話」はいつの間にか「ガラケー」と呼ばれるようになって、まもなく姿を消すとのこと。

「そもそも人間はアナログではないか。悔しかったらデジタルのように動いてみる」。こんなことを言っているのがそもそも「アナログ人間」ということなのでしょう。

ある日の授業で、自分の高校・大学時代を話していました。大学受験を目標とする生徒たちを対象にした授業でしたので、何かの参考になればということで(単なる余談ですが)話し始めたのだらうと思いますが、私の高校・大学時代はもう40年以上も前のことになるわけですね。

私が子どもの頃(私は昭和38年生まれです)、親たちあるいはそれより少し上の世代の人たちからよくこんなことを言われました。

勉強していないと「昔は勉強したくてもできなかった。学校に行きたくても行けない人もいた。お前たちは幸せだ」

食事で好き嫌いなど言おうものなら「昔は食べる物がなくていつも腹を空かしていた。草の根でも何でも食べたもんだ。学校へ弁当を持ってこられないで、昼になると教室から出て行ってしまった人もいた。お前たちは幸せだ」

そんなことを聞くたび、「一体いつのことを言っているんだ。そんなことは知らないよ」と思っていた私がいました。でも、考えてみれば、それは終戦から20年そこそこ。私が話す、中学・高校時代の約半分の年月です。今の高校生に私の学生時代が参考になるのか。

学校現場には、デジタルの波(波ではなく「怒濤」と言うべきか)が押し寄せてきています。授業でも、デジタル教材、ICTを用いての授業が当たり前となり、コロナでの休業中はオンラインの利用もしました。スポーツフェスティバルや合唱コンクールは、保護者のご来校をいただけないため、オンライン配信でご覧いただきました。

なんと便利な時代になったのだ。

しかし、アナログ人間の私はこれがそんなに素晴らしいこととは思えません。

「お前たちは幸せだ」

そんなふうにも思えません。同窓生の皆さんはどのようにお思いになるのでしょうか。

先日、原中学校へ伺いました。その3学年主任の女性の先生がおっしゃいました。

「伊那西高校は本当に素敵な学校だと思いました。近かったら、みんなに勧めます」

その先生は、中学校の先生方を対象にした学校説明会で、本校にお出でいただき、生徒の様子を見て、自分が指導した生徒はこんな学校に通わせたいと思ったのだそうです。

時代はどんどん変わっていきます。それは素晴らしいことでしょう。でも、変わってはいけないものもあるはずです。その一つが、学校のあり方であると思っています。

同窓生の皆さまは、それぞれの場所でご活躍のことと拝察申し上げます。そしてまた、コロナ禍にあって大変な思いをされていると存じます。

コロナ禍が収まり、総会で、あるいは、文化祭などで行事で、皆さんとお会いし、高校時代について楽しくお話しできる日が来ることを願っています。

今後とも、本校を応援いただきますよう、お願い申し上げます。